
オオカミさんとホスト？な少年

？紫苑？

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オオカミさんとホスト？な少年

【Nコード】

N2835Y

【作者名】

？紫苑？

【あらすじ】

僕が書く、オオカミさんシリーズの二次創作！
まさかの、あの人がデレた！？

ブローグっぽくないブローグ（前書き）

初めまして？

アンケートに投票してくれたかた

ありがとうございます

ブローグっぽくないブローグ

彼、森野亮士は通称御伽銀行と呼ばれる

『御伽学園学生相互扶助協会』
に入った。

御伽学園の御伽銀行という名は
御伽花市では絶対の恐怖として
知られている

曰くあれに逆らったら

この町では無事に暮らせない、
奴らに借りを作ってしまうと
尻の毛まで抜かれてしまう、
奴らに関わると

チワワが愛おしく見えてくる、
利用が計画的な人間は
間違いなく奴らと関わらない

という感じです

「御伽銀行地下本店へようこそ」
どうしてこうなったか、かなり気になる人は
買って読んでください・・・

りんごさんが大きな食器棚をずらすと
現れたのは、地下へと続く階段。
りんごさんというのは、

『赤井 林檎』 高校1年生。

小さい背に、かわいらしい容姿、
腹黒いけど、見た目だけは天使の
ような女の子。

つと！ 説明してる間はかなり進みましたね！

「ここはですの。 学校ができる前に防空壕だったところなんですのよ。この学校ができるときに手を加えてここができましたの。まあ、それから何度も改築されてかなり過ごしやすくなってますのよ。電気に水道はもちろんのこと水洗トイレまで完備ですの。」

そう言いながら進むりんごさん。

「この辺りの部屋は、倉庫に水回り関係に
電算室に仮眠室って感じですよ。」

詳しい説明はあとにまわしますけど・・・。

まあ、まずは皆さんに顔見せをしましょうですよの」
「わかったっす」

きよろきよろと周囲を見回しながら
亮士くんは言う。

りんごさんはそのまま進んでいたが、
右側三番目の扉の前に止まった

「と、ここの紹介は後回しにするわけには
いきませんの。それに

魔女先輩を呼ばないといけませんし」

「魔女先輩っスか？」

どう考えてもあだ名だろう

その名前を聞いて

老婆が ヒーツヒーツヒー

とか笑いながらヤモリを大釜で

煮ている姿が亮士くんの脳裏に浮かんだ

プロローグっぽくないプロローグ（後書き）

ほとんど、書き写していますので

今のところは・・・

もう少しでオリ主がでてきます

魔女さん登場！（前書き）

^
^

魔女さん登場！

「そう。2年生の先輩ですの。ここは魔女先輩の工房でいつもここにいますの。」

ここ、通常は立ち入り禁止ですので気を付けてくださいの。というか、危険なので近づかないでくださいの。勝手に入ると罠が発動しますのよ。」

「まあ、ですの。一人だけ普通に入る人がいるんですの。あの時はすごかったですの。」

どんなことがあったのでしょうか。

というわけで気を付けてほしいですの〜と念を押しながら扉をノックするりんごさん

「魔女先輩、例の新人連れてきましたので広間のほうに来てほしいですの。」

あだ名や武勇伝から

すんごい想像をしたりする亮士君は

ときどきしながら返事を待つ

そして、扉の中からかわいらしい声が聞こえた

「わかったヨー」

魔女さんは軽かった。

「ごほん。 それではお待ちかねの
仲間たちのご対面ですの。」

まあ 基本的には いい人なので
あまり気にしなくてもいいですよ。」

「はっはいっす」

がちがちの亮士君、「基本的には」の部分が
微妙に強調されていたことに気付かない。

・・・りんごさんは扉を開いた
トンネルを抜けると・・・そこはメイドの国だった
いや、マジで

魔女さん登場！（後書き）

短いと思いますがきりがよかったので
ここまでにします

感想、誤字等などがありましたら
教えてください！

・・・！（前書き）

^
^

・・・！

あまりに予想外の光景に
固まる亮士くん

・・・そうメイドがいた。

そして、りんごさんと大神さんに
メイドはにつこり微笑んでお辞儀を一つ

やつと出てきた大神さん

大神涼子。高校1年生

子供も怖がる凛々しい目。

笑うとのぞく魅惑的な犬歯

胸はないけど、とっても美人（？）で

ワイルドな女の子なのです！

「あら、お帰りなさいませ、

りんごさま、涼子さま」

「おつつ先輩、こんにちはですの」

「どうも」

「はい」

にこにこにこにこと慈愛あふれる笑顔で

後輩たちを迎え入れるおつつさん

二人の後ろに彫像のごとく

固まったまま突っ立っている亮士くんに気付いた

「あら、そちらがうわさの……」

「そう、期待の新人森野亮士くんですの」

「いつたいどこが期待の新人なんだよ」

「涼子ちゃんのハートをゲットするかもしれない人なんですから、期待の新人ですの」

「はっありえねーありえねー」

手を振り、呆れたというジェスチャーをする大神さんが、

「涼子ちゃん顔真っ赤ですよ？」

「な!!」

大神さんとりんごさんのじゃれあい
はさておき……

社長がいそうな雰囲気
の部屋

でかいテレビにモニター、
掛け軸

ふかふかのじゅうたんなど
おいてある

地下にこんな部屋があつた
とは……

「頭取、仕切っていただけ
ますの？」

りんごさんは、部屋の一番奥
の木製の立派な机に目をや
って言った。

社長室にでもありそうな机
と椅子に

にへらへらと締まりのない表情をした少年が座っている

頭取と呼ばれた少年だ。

その頭取さん、マイナスもプラスもない目立たない容姿をしていて、

髪の毛は短く切りそろえられている。

服装はなぜか燕尾服。

机の上で組んだ手は男と思えないほど

白くほっそりとしている

もやしっ子みたいな感じで・・・

「えー 僕がかい？ こういうことはアリスくんが適任じゃないかな？」

頭取さんはそういつて

自分の隣に立つ大人びた少女に話しかけるが、一言でばっさり切られた

「頭取、たまには働いてください」

秘書みたいなアリスと呼ばれた女子生徒、

その、切れ長の瞳が絶対零度の冷たさで頭取さんを突き刺している

「ん、んー そうだねー？」

じゃあ、執事くんはー？」

「断る しかも今働けって言われたばかりだろ

めんどいし・・・」

頭取さんは次にアリスさんの横にいる

一見、さわやかそうな美少年に話しかけるが
断られる

「アリス、そんな怖い顔してるとかわいい顔が
台無しだよ？」

「／／／っ！ 別にいいです！」

執事と呼ばれた少年はアリスさんに話しかける
頭取さんの時と態度が全然違うけどね

お客さんみたいだよ？（前書き）

久しぶり？に更新します

お客さんみたいだよ？

「……ちょっと待って、お客さんみたいだよ？」

「あらそうですの？」

「うん、ほら」

机の上にあるモニターを回してみんなに見やすくする頭取さん

その画面には部室の前になっている

少女が映っていた

「アリス君確か今日の当番は2年生組だったよね？」

「はい。そうです」

「1年生組はここで見て覚えてね？
けど、共同作業ってことだね？」

「かしこまりました」

そついつて一礼したあと部屋をでていく

おつうさん

くくすすむくくはなしがくく

「そうです。ここにいるのは女の人ばかりですし、頭取は男性のくせに役に立ちませんの。おかまですし、執事先輩は何でもできるので完璧ですの。」

「光荣だよ。」

「はははっ赤井くんもなかなか失礼だね？
執事くんもアリスくんもそう思わないかい？」

「妥当な評価だと思いますが」

「うん・・・正解だと思う。」

「はははっ？ いや、暴力ですべて解決するのはどうかと思うしね？
それに僕はおかまじゃないよ？」

「じゃ、女装趣味に訂正しますの」

「はっはっは？」

冷や汗かく頭取さん

実を言うと執事くんも女装が得意なんだよ？

「んーじゃあま、鶴ヶ谷くんが上に上がるまでに簡単に
僕の紹介でもしようかな？

僕の名前は桐木リスト。

これでもたぶん頭取だよ？ね？」

隣のアリスさんに問いかける頭取さん

アリスさんはそのきれいな顔をゆがめて言う

「遺憾ながら」

「はははっ相変わらず厳しいね？アリスくん？　で、このクールビューティーな彼女は桐木アリスくん、副頭取だよ？」

「よろしく」

「はははっつれないね？将来を誓い合った仲だというのに？」

「ふざけるのは趣味だけにしてください
ちなみに名字が同じなのはいいところ士だからです。」

「そして、その横にいるのは？
同じく副頭取の北風太陽くん。
通称執事くんだよ？　名前がぴったりだよね？
女性には優しく（太陽）男性には厳しく（北風）ね？」

「どうも。ちなみに厳しくするのはリストだけだから」

やっと出てきた主人公の名前！

ここからは執事くん目線で行くよ？

「アリスはリストのこと好き？」

好きなのかなあゝ気になる

「・・・なつなにを言ってるんですか！ヨウくん！」

焦ってるってことは好き！？

「だって・・・リストが将来のことを誓い合った仲って・・・」

「冗談ですって！」

ホントに？

「そう？ 本当に？」

「本当です！
...それに私には別に好きな人が

」

？

「どうしたの？ アリス？ 何か言っただ？」

何か聞こえたような・・・

「いっ／＼／＼ なんでもありませんよ？」

お客さんみたいだよ？（後書き）

どうでしたか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2835y/>

オオカミさんとホスト？な少年

2011年11月27日19時57分発行